

遠隔授業 ガイドブック

ーリアルタイム型ー

- P1. リアルタイム型授業とは
- P2. 授業の進め方
- P3. 授業の準備
- P4. 教育効果を高めるために
- P5. 授業の工夫紹介

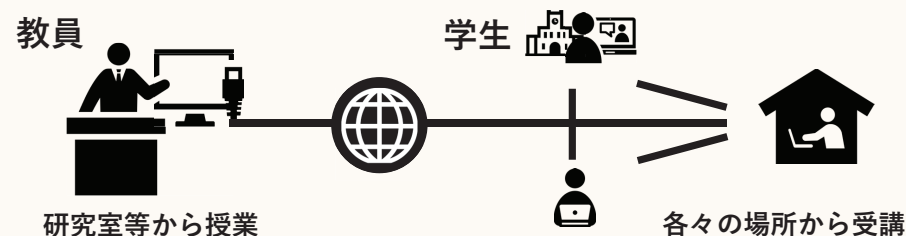
中京大学
教育推進センター

発行：2022年4月1日

リアルタイム型授業とは

リアルタイム型授業とは、オンライン会議システム等を通じて**教員と学生が同時双方向で行う**授業形態です。

※同時双方向：オンライン上で教員と学生がリアルタイムに反応できる状態



特徴

グループワークや発表など、**対面に近い授業を展開**できます。

相性のいい授業



学生発表等の参加型授業



遠方の講師をゲストとして
招聘する授業

典型的な教材

学生が作業できる教材

書き込みが必要なレジュメ

授業の流れが分かる教材

ポイントや補足のまとめ

Q&Aや躰きのまとめ

授業の進め方

リアルタイム型はライブ感がありますが、それぞれは個別受講のため交流の機会も必要です。

講義



交流



一方的にならないよう、学生同士や教員との交流機会を設けることが重要です。

授業の準備

基本的な4つのポイント

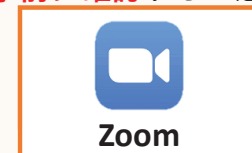
① 専用の教材を作成する

学生は様々な媒体で受講するため、**見やすさの工夫**が必要です。



② オンライン会議システムの仕様を確認する

システムの仕様は事前に確認すると進行がスムーズになります。



③ 学生に連絡する



④ ネットワークトラブルに配慮する

トラブルへの対応方法は、事前に決定・共有してください。

※場合によっては柔軟に対応してください。



教育効果を高めるために

リアルタイム型の授業は一方的にならないよう、授業に参加できる環境を整える必要があります。

①集中できる環境を整える（「ながら見」を防ぐ）



授業中の書き込みが必要なレジュメ



学生への問いかけを意識する

②提出された課題にフィードバックする

学生の学習に対するコメントの返信、優良な回答の共有などで学習を促進



課題と評価は
ワンセット

③質問やディスカッションの機会をもつ

リアルタイム配信＝双方向性ではありません。システムを活用して交流の機会を設定しましょう。



授業の工夫紹介

リアルタイム型授業を実践した先生方から寄せられた、授業の工夫を紹介します。

1 機材・通信環境等の準備

2 教材作成の工夫

3 授業に参加させる工夫

4 授業に集中させる工夫

5 理解促進のための工夫

6 理解度把握のための工夫

① 機材・通信環境等の準備



安定した通信のため
有線LANを使用する



音質向上のため
ヘッドセットを利用する



ツールは最新の状態にする



通信トラブルに備えて
録画する

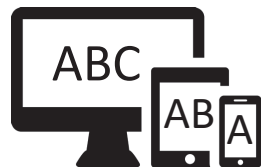


資料提示用のカメラを使う

② 教材作成の工夫



作業を伴う教材にする



様々な媒体に配慮して
字を大きくする

③ 授業に参加させる工夫



1コマに1人1回は
数秒でも発言させる



最初に学生から近況などの
話題を提供してもらう



リアルタイムで学生の反応を貰う

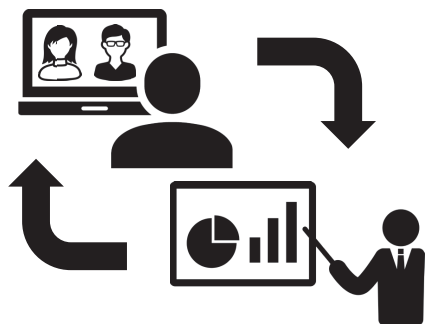


こまめにリーディングや
グループワークを行う

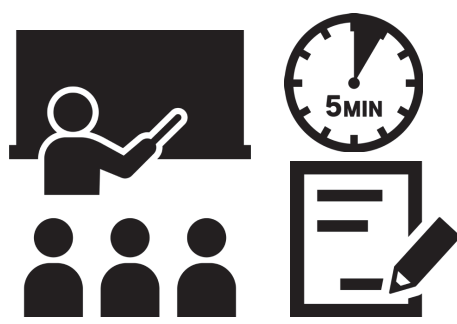


答える「ふり」でも
反応をしてもらう

④授業に集中させる工夫



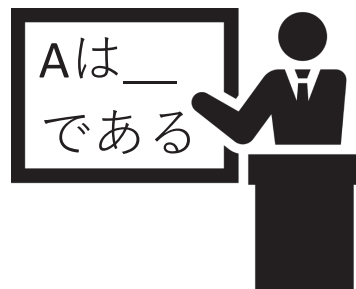
学生の顔を見ながら進める
ところと、教材で説明する
ところを分ける



授業中に小テストや
ミニレポートを実施する

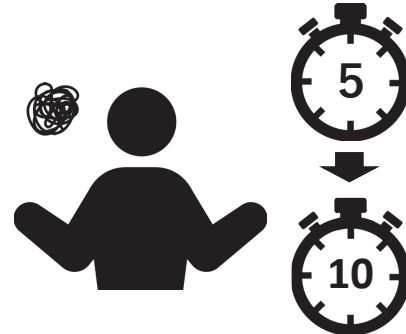


画面を共有しながら
資料に書きこむ



スライドに多くを載せず
口頭の書き取りをさせる

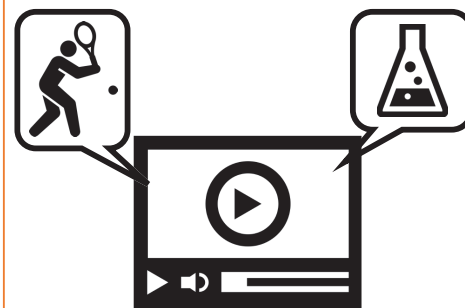
⑤理解促進のための工夫



学生の様子を見て内容や
時間配分などを調節する



事前に学生に予習させ、
講義中はグループ学習等で
反転学習を行う。



実験や実技は要点を動画に
して繰り返し動きを伝える



面接授業よりもゆっくり
抑揚に気を付けて話し、
ポイントは繰り返す

⑥理解度把握のための工夫



毎授業の後半10分で
質疑応答をする



チャットを利用した
質疑応答や授業外の
コミュニケーション



学生の顔を表示し、
反応や理解度を確認する



毎授業後にメール等で
コメントを集める



学生からの提出物は
次回の授業までに確認する

遠隔授業
ガイドブック

ーリアルタイム型ー

中京大学教育推進センター